

セルトレイを利用したブロッコリーの効率的育苗法

福島県農業試験場いわき支場・平成10年度春夏作試験成績概要

1 部門名 野菜—ブロッコリー—育苗 03-25-06000000

2 要 旨

「緑嶺」を供試品種とし、セル容積(14.5cc200穴、10.5cc288穴、4.5cc406穴)、育苗期間(2、3、4週間)、及び苗床施肥量(用土1L当たりN成分150、300、450mg)と、苗の生育、収量について検討した。育苗用土は、バーミキュライトとピートモスを1:1に混合したものをを用い、肥料は、肥効調節型育苗専用肥料(マイクロロングトータル201—70日タイプ)を施用した。

(1)その結果、セル容積は、苗の生育が良く、収穫率、単収等も高い14.5cc(200穴)～10.5cc(288穴)のものが適していた。

(2)育苗期間は、期間が長くなるほど花蕾重、長径、短径、単収ともに高かったが、3週間と4週間育苗の差が小さく、また、4週間では苗が徒長することから、3週間育苗が効率的であった。

(3)苗床施肥量は、収穫時の品質、収量等に及ぼす影響が認められなかったことから、用土1L当たりN成分で150mg程度で良い。

(4)以上の条件で生産される苗の大きさは、概ね草丈9cm、葉数1.5枚、株重0.6gである。

(5)セル容積が小さいので、育苗用土と肥料の混合が均一になるよう留意する。また、根鉢が小さいので、育苗時及び定植後の水管理等に留意する。